

II 鹿嶋市教育行政評価委員会の答申を受けて

1 平成 25 年度教育行政運営方針における主要事業評価について

平成 25 年度の教育行政評価は、前年度から見直した評価シートを継承し、事業を計 20 領域に絞ったうえで実施しました。その結果、18 の評価項目が A 評価、また 2 つの評価項目が B 評価とおおむね適切に評価をいただいています。

答申の中で工夫・改善等の指摘をされた事業については、対応策として以下のとおり考えていきます。

重点目標 1 豊かな心と生きる力の育成について

(1) 学校図書館の整備 (A : 82.6)

平成 26 年度現在、市内小中学校 17 校中 15 校の学校図書館としての整備が完了しています。平成 29 年度の全校開館に向け、残り 2 校の整備も順次進めていきます。ソフト面としては、学校図書館と公共図書館の連携が可能となったことで、教育課程に即した児童生徒の興味関心をより促す図書の提供が可能となりましたので、学校図書館司書と公共図書館司書の人事交流を行い、専門的知識や技術を習得・共有することによって、学校図書館の充実を図っていきます。

学校図書館を「学習センター」として機能させるために各種研修を通して司書としての資質向上を促し、学校との共通理解を図りながら学校図書館を運営することで、教育課程により効果的な場を提供することができるよう努めていきます。具体的には、平成 26 年度中に司書教諭、学校図書館司書、公共図書館司書の三者合同での研修として、「三者のより良い連携」、「ブックトーク」等について研究を行います。

重点目標 2 学力の確実な向上

(5) 長期欠席児童生徒解消 (A : 83.5)

不登校及び長期欠席の児童生徒の支援に対して、ゆうゆう広場は個に応じた丁寧な指導を行っており、登校困難な児童生徒の学校復帰への足掛かりを効果的につくっています。例年 2 学期後半から 3 学期にかけて相談件数や家庭訪問件数が増えます。これは、登校が困難な児童生徒が増える時期であるとともに、登校復帰に向けて児童生徒に対する相談だけでなく、保護者や学校との相談件数が多くなるためです。したがって、登室している児童生徒の支援が不十分にならないよう、人員を増やす必要性が生じています。また、施設の老朽化も進んでおり、登室した児童生徒が活動する環境の整備も必要であると考えています。

(6) ICT教育の充実 (B: 72.7)

ご指摘のとおり環境整備で満足せず、その後の各学校における活用方法や使用していく中でのメリットデメリット等を検証し、より効果的な活用ができるよう、学校現場（教職員及び児童生徒）の意見を伺いながら、ICT教育の充実に努めていきます。

重点目標3 郷土理解教育と国際理解教育の推進

(7) 鹿嶋市の歴史・文化・伝統の普及と発信 (A: 95.5)

鹿嶋市にはどきどきセンター、はまなす郷土資料館、ミニ博物館ココシカの3つの文化財展示施設があり、鹿嶋の歴史と文化について発信していますが、継続的に学校教育活動に取り込む具体策に乏しく、長年の課題となっています。また、どきどきセンターは立地の問題もあり、訪問者が増えないという課題があります。出前講座や文化財展示施設の見学を学校のカリキュラムに組み込むなど、学校と連携した郷土教育の計画を立てる事が必要だと考えています。それに併せ、子どもたちが文化財展示施設を訪問し、鹿嶋市の歴史や伝統を学び、郷土へ誇りをもてるように施設の充実が望まれています。

ミニ博物館ココシカは年々展示内容を充実させていますが、来館者にアンケートをとるなどして、客観的に事業内容の評価ができるような指標を作ることが今後の課題となります。

(9) 中学生国際交流事業 (A: 90.1)

ご指摘のとおり、本事業では派遣される生徒の数は限られています。派遣する生徒数の拡大は見込めない現状で、大多数の生徒が無関係にならないためには、鹿嶋市の代表として派遣された生徒が、その経験を還元することと考えております。

具体的な方策としては現在行っているFMかしまでの事業成果の発表、報告書の作成の他、学校内での報告会の実施、公共施設へ報告書の設置を進めていきます。

重点目標4 スポーツ・芸術文化活動の振興と市民交流の推進

(10) スポーツ事業の開催と機会提供及び市民スポーツの支援 (A: 89.7)

少子高齢化がますます進み鹿嶋市の活動人口も減少傾向にあります。そのためスポーツの持つ多面的な効果（交流人口の拡大、地域経済への波及など）を「まちづくり」につなげるためにも、早期のスポーツコンベンションビューロー設置に向け取り組んでいきます。

(11) 各地区まちづくりセンター活動支援，芸術祭・市美術展覧会等の開催 (A: 91)

芸術祭及び市美術展覧会の開催について，実行委員及び出品者の固定化や高齢化が課題となっています。芸術活動における新たな出品者の創出に向けて，「社会教育推進計画」に具体的な取り組みを加え，改善を図っていきます。また，地区まちづくりセンターで行われる文化・芸術活動が市美術展や芸術祭・文化フェスティバルの底上げにつながるよう，関係機関・団体等と連携し取り組んでいきます。

(12) 神野向遺跡保存事業 (B: 66.4)

ご指摘のとおり，本事業については，史跡である土地の公有化の進捗状況など他事業に比して困難な面があるため，評価シートとしては厳しい評価にならざるを得ない面があります。

公有化については国や県と随時調整しながら進めるとともに，市民の意見や要望を取り入れて，今後の事業計画を策定していきます。

重点目標5 安心して学べる教育環境づくり

(16) 子育て講演会等の開催 (A: 100)

鹿嶋市では，家庭での子どもとの関わり，家庭教育の重要性を啓発するため，また，保護者が一人で子育てに関する悩みを抱え込まないように，また，思春期の中学生に対し，性や心の教育をすることで，自分自身を大切にし，命の大切さを学ぶ機会として，「子育て講演会」や「心とからだの講座」を実施しています。今後は，なお一層の家庭教育支援の充実を図るため，講演会と併せて，個別相談のできる体制づくりにも取り組んでいきます。

(17) 教職員指導対策事業 (A: 84.6)

引き続き，指導主事の訪問等による指導・助言を行うとともに，教職員が少しでも多くの時間，児童生徒とふれあえる環境整備を図れるよう教育委員会としてサポートしていきます。

また，現在，児童生徒の一人ひとりの学力向上を図ることを目的として，分かりやすい授業を展開するために，授業改善プロジェクトを立ち上げ，授業公開や研修会を行い，スーパーアドバイザーから指導・助言をいただき，教職員の質の向上を図る取り組みをしています。それらをうまく融合させながら，児童生徒の学力向上につなげていきます。

2 今後の教育行政評価の在り方について

本年度の教育行政評価については、昨年度に引き続き BSC（バランス・スコアカード）の視点を盛り込んだ評価シートに基づく自己評価を用いて効果的かつ効率的な評価を適切に実施できたと評価いただきましたが、ご指摘のとおり評価シートにおける課題や内容の明確化について課題があることも事実です。事業を予定通り実施した場合における事業毎の自己評価結果に差異があり、自己評価者の評価の基軸の相違が見受けられました。今後は、事業を予定通り実施した場合でも、その事業の課題に対する方策を講じていけば、「評価シート」における「アウトプット（執行段階の効率性）」や「執行工夫・日常業務改善の取り組み」において評価するなど、評価基軸の統一化を図っていきます。また、評価シートの内容が単に事業の表面的な結果のみの明示となっているものもあり、明確化についてのご指摘もありました。全事業において評価シートの内容をより深く明示し、BSC による評価に沿った評価シートにしていきます。

以上のことを踏まえ、今後、評価を行ううえでの方向性を再度、検討いたします。そして、自己評価者全員の共通認識の下、確かな自己評価を行い、統一性のある評価にしていきたいと思っております。